



東大、東大？

以前、諸君や諸君の保護者の皆さんにお願いしてやっていた「学校評価アンケート」の中に、「進路指導などの際に、東大を例に取りあげることが多いが、いかがなものか？」といった意見が寄せられていた。なるほど、そんなイメージを持つこともあるのだろうが、そのことに関して（私も進路部なので）ちょっと私の考えを書いてみたい。

＊

「大状況」と「小状況」という言葉を聞いたことがあるだろうか。例えば、戦争映画などでは、その国が戦争に巻き込まれていく社会的背景が描かれつつ、その中に生きる主人公の生き方や愛が語られる…などというのがよくあるパターンである。この前者がいわゆる「大状況」、後者が「小状況」である。

日比谷の置かれている「大状況」を考えてみよう。日比谷は、都立進学指導重点校のトップ校であり、全国の公立高校のトップ校でもある。とすると、当然のことながら進学の話をする際に、日本のトップ大学のことを話題にせざるを得ないということが見えてくるのではないだろうか。

一方、「小状況」はどうかというと、例えば年4回実施されている個別面談の場面などが考えられる。面談の際、担任が本人の希望を無視して、無理矢理東大受験を勧めるようなことがあるだろうか。決してそんなことはないだろう。本人の進路設計を聞き、疑問や要望を聞いて、日常の成績や模試の結果なども参考にしながら、それぞれの課題にふさわしい勉強法や進路選択についてのアドバイスしているのではないだろうか。

まあ、「本音と建前」的な感じもするが、全員を前にした一般論的な話の中では、どうしても「東大、東大」的な傾向になってしまうのは、日比谷の置かれている状況を考えると仕方ない部分があるのである。一方で、個々の進路指導においては、丁寧に希望を叶える形になっていると思うがどうだろう。

ちなみに、東大が名前だけで、話題にするに値しない大学ならどうしようもないが、東大は世界的評価からいっても目指すに値する大学である。例えば「iPS細胞について山中教授のもとで学びたい」といった明確な目標のある人は、それを実現する大学・環境を目指せばよいが、そこまで自分の未来が見えていない人にとって、やはり一つの目標となる存在なのである。

トップ大学なら、例えばハーバードなどを例に挙げてもいいのではないか、という人もいるが、私はそうは思わない。例えばアメリカの大学は広く留学生にも門戸を開いているが、それは、すでに格差社会となったアメリカ国内では優秀な人材が確保できなくなっているからだ指摘されている。留学して、その後国際社会に出て活躍している気になっている諸君が、実はアメリカ「帝国」のお先棒担ぎになっているという現実がまあることをしっかりと認識すべきであろう。

それなら、むしろ日本にいて、日本の大学から世界に向けて発信できるようになってほしいものだと私は思う。そして、東大には（東大だけではないが）世界に向けて発信していく環境がしっかり整っているのである。